

学認 LMS

LTI 連携手順

(機関 LMS 管理者向け)

2022 年 1 月

国立情報学研究所

目次

1	コンシューマの設定	2
1.1	コースへの外部ツールの追加.....	2
1.2	学生が利用する	3
1.3	教員が利用する	4
1.4	コンシューマ側のコース評価について	5

1 コンシューマの設定

学認 LMS から共有されたコンテンツを他の Moodle で「外部ツール」として利用します。

1.1 コースへの外部ツールの追加

コースを表示し、編集モードにして、外部ツールを追加します。



上記で外部ツールを選択すると、以下の外部ツールの設定画面が表示されます。

新しい外部ツールをトピック1に追加する

一般

活動名 ! 研究者のための研究データマネジメント

事前設定ツール ? 自動、ツールURLに基づく + * x
コンテンツを選択する

ツールURL ?

さらに表示する ...

必須項目なので教材名などをセットします。

活動名は必須ですので適宜セットし、「さらに表示する...」をクリックします。

事前設定ツール ? 自動、ツールURLに基づく + * x
コンテンツを選択する

ツールURL ? https://lms.nii.ac.jp/enrol/lti/cartridge.php/6/0b612ab02ca71df7d3b55d0
✓ ツールカートリッジを使用する

セキュアツールURL ! ? https://lms.nii.ac.jp/enrol/lti/cartridge.php/6/0b612ab02ca71df7d3b55d0
✓ ツールカートリッジを使用する

起動コンテナ ! ? 新しいウィンドウ

コンシューマ鍵 ! ? AwesomeUniv001

共有秘密鍵 ! ?

カスタムパラメータ ! ?

プロバイダ (学認 LMS) から提供される「カートリッジ URL」をセットします。

こちらにも同じ「カートリッジ URL」をセットします。

何か文字列をセットします。特に決まりはありませんが、プロバイダ側に送信されます。

プロバイダから提供される「秘密鍵」をセットします。

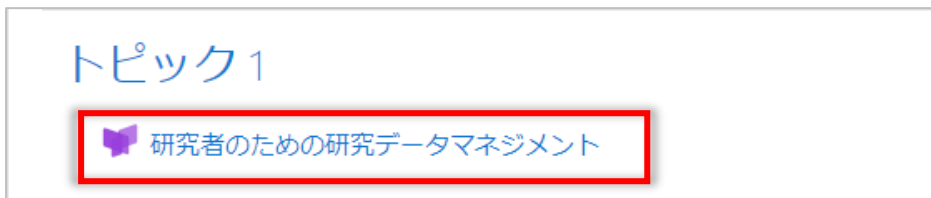
コンテンツを表示する方法をセットします。「新しいウィンドウ」がお勧めです。

上記の各項目をセットします。

その他の項目も確認して、[保存してコースに戻る] をクリックして保存します。
以上でコンテンツの設置は完了です。

1.2 学生が利用する

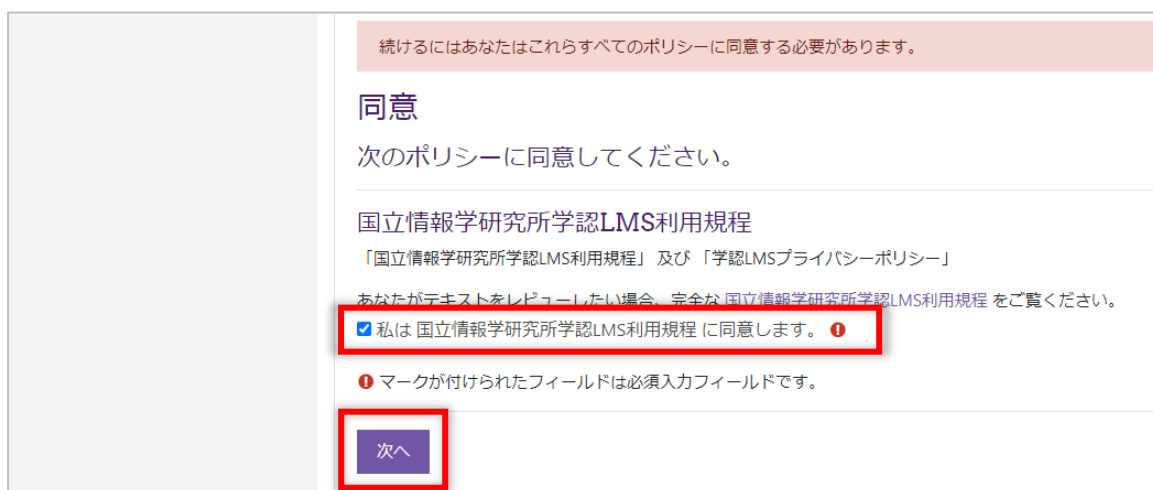
コースに入り、追加した教材のリンクをクリックします。



はじめて学認 LMS の教材を LTI 経由で利用する場合には、以下のような利用規程の画面が表示されます。



画面下部の [次へ] ボタンをクリックすると、さらに次のポリシー同意画面に進みます。



[同意する] をチェックし、[次へ] 画面をクリックすると、教材のコースへ進みます。
(教員がアクセスする場合も同じです。)

The screenshot shows the GakuNin LMS interface. The top navigation bar includes the GakuNin LMS logo and the user name 'Gakunin User'. The course title is '研究者のための研究データマネジメント'. The sidebar on the left lists the course outline:

- パブリック
- コンピテンシー
- 一般
- 1. 研究前：外部資金の取得
- 2. 研究前：申請書類 (DMP) の作成
- 3. 研究前：所属機関のインフラ活用
- 4. 研究中：研究データの保存
- 5. 研究中：データの検索・発見・収集
- 6. 研究中：データ共有

The main content area includes a breadcrumb trail 'Home / マイコース / rdm-03' and a section titled 'このコースについて' (About this course). The text describes the course's focus on research data management and includes a list of key features:

- 各章の動画再生ページは、別タブまたは別ウィンドウで開きます。動画の再生が終わったら、タブまたはウィンドウを閉じてコースにお戻りください。
- 各章の理解度チェックでは、章に関連する問題がランダムに3問出題されます。何回でも受験することができます。
- 理解度テスト (コース修了判定) は、各章からランダムに2題ずつ出題されます。何回でも受験することができます。

必要な教材を受講してください。

コンテンツから抜けるときは、ウィンドウを閉じると良いでしょう。(外部ツールの設定で起動コンテンツに「新しいウィンドウ」をお勧めする理由です)

1.3 教員が利用する

コースに入り、追加した教材のリンクをクリックします。

The screenshot shows a 'トピック1' (Topic 1) section. A red box highlights the course title link '研究者のための研究データマネジメント'.

学生と同様に、はじめて学認 LMS の教材を LTI 経由で利用する場合には、利用規程の画面が表示されますので、必要に応じて利用規程に同意してください。

また、コンテンツにアクセスすると、以下のようなメッセージが表示される場合があります。

The screenshot shows a message box with a red border. The message text is: '機関管理者の機能を利用する場合は、ユーザメニューから「通常ロールに戻る」を選択してください。'

コンシューマの Moodle で教師権限を持つユーザは、学認 LMS では「機関管理者」のロールでコースに登録されますが、学認 LMS の仕様により、最初は学生として振舞うようにロールを切り替えた状態になっています。

この場合、ユーザメニューから「通常のロールに戻る」を選びます。



「機関管理者」のロールになると、自組織のユーザの評価や小テストの評価などを確認できるようになります。(他の組織のユーザは見えません)

1.4 コンシューマ側のコース評価について

若干のタイムラグがありますが、学認 LMS で提供したコンテンツ（コースや活動）の評点が外部ツールの評点として取得され、最終的にコースの評価に反映されます。

もちろん、学認 LMS でコースを共有した場合は、コースの評価が適用されますので、評価表セットアップなどで、コース内の各活動に適切な満点や加重が行われているか確認しておく必要があります。

以上。